

シンポジウム I 看護の未来。私の未来。

11月15日(木) 14:45～16:25 第1会場(1号館2階 センチュリーホール)

S1-1 なぜ、日本看護協会が 認定看護師再構築に取り組んだか

公益社団法人日本看護協会 常任理事

あらき あきこ
荒木 暁子

1. 日本の医療の現状と看護師に期待されていること

日本はかつてない高齢社会、人口減少時代を迎えている。疾病構造は変化し、悪性新生物、心疾患、肺炎、脳血管疾患など生活習慣病関連の死亡が6割を占める。壮年期から加齢に伴い外来受療率が増加し、後期高齢期になると入院受療率が増加する。要介護認定者や複数疾患を抱える高齢者が増加し、医療・介護の需要が増し社会保障費が増大した。2025年へ向けて社会保障制度改革が推進され、地域医療構想、地域包括ケアシステムの構築が進められている。また、生活を重視する保健・医療・福祉制度への転換、つまり、「治す医療」から「治し支える医療」へと転換を迫られている。このような社会情勢・医療提供体制の変化を受け、これからの看護師には、急性期医療に加え在宅医療まで支えられる、地域・施設間の連携に寄与できる役割が期待され、社会が求める看護の専門技術も変化してきている。

日本看護協会は、『2025年へ向けた看護の挑戦 看護の将来ビジョン いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護』（2015）の中で、「看護は、対象となる人々を、どのような健康状態であっても、人生を生きる一人の個人として総合的にみる。つまり“疾病”をみる医療の視点だけではなく、生きていく営みである生活の視点を持って“人”をみることにその専門職としての価値をおく」とし、「2025年に向けて、看護はその変わらない価値を踏まえ、医療の提供と生活の質の向上の両機能について、質的にも量的にも拡大していくことに挑戦する」と明言した。

2. 認定看護師制度の再構築

少子・超高齢社会へ向け国民のニーズにより対応すべく、日本看護協会は資格制度の一つである認定看護師制度の再構築に取り組んでいる。認定看護師制度が誕生して20年が経過し、今や認定看護師はそれぞれの分野に関する熟練した知識・技術を持つ看護のスペシャリストとして、医療の場に不可欠な存在となり、報酬上の要件となるなど社会的な評価を得ている。

新たな認定看護師制度の目的は「特定の看護分野において、熟練した看護技術及び知識を用いて、あらゆる場で看護を必要とする対象に対して、水準の高い看護実践のできる認定看護師を社会に送り出すことにより、看護ケアの広がり看護の質の向上を図ること」である。新たな認定看護師制度による教育を2020年度に開始するために、分野再編、および、特定行為研修を組み入れた新たな教育カリキュラムの準備を進めている。

認定看護師が新たな制度として益々成果を上げるには、認定看護師自身の実践スキルを磨く弛まない努力、教育機関や現場と一緒に働く医療従事者や看護管理者の理解と尽力、そして、認定看護師のスキルアップやエビデンス構築のための関連学会や団体の協力やバックアップが必要不可欠である。新たな制度への移行支援、教育方法やカリキュラムなどについての情報を共有し、皆様の理解・支援を頂く機会としたい。